

<新刊ご案内>



セーフティ ネットと集団

新たなつながりを求めて

玄田有史 + 連合総研【編】

■定価2090円（10%税込） 46判並製264 p 2023年5月19日刊行
ISBN978-4-296-11811-3 C0033 発行 日経BP 日本経済新聞出版
*書店でお求めください

<新刊ご案内>

このたび、連合総研では「with/afterコロナの雇用・生活のセーフティネットに関する調査研究委員会」の研究成果として、玄田有史+連合総研編『セーフティネットと集団』を刊行いたしました。

本書では、労働経済学、社会保障、労働法、人事管理などの気鋭の研究者が、コロナ禍で浮き彫りになった従来のセーフティネットの問題を明らかにするとともに、今求められる安全網について、国内外で注目されたユニークな取り組み事例なども紹介しながら、最新のデータと調査をもとに明らかにします。

雇用が不安定な人のほうがセーフティネットも脆弱であるという問題を、どう解決するか。従来の措置に欠けているものは何か。「多様性」の尊重が分断や孤立を加速させるという新たなジレンマにどう対処するか。そのための必要な「集団」のあり方とは？ ぜひご一読ください。

■目次

- 序章 安全とつながりの手応えを得るために 玄田有史（東京大学社会科学研究所教授）
- 第1章 雇用のセーフティネットを編む：中間層に届かない支援 酒井正（法政大学経済学部教授）
- 第2章 生活のセーフティネットを編む：誰もが利用できる安全網へ 田中聡一郎（駒澤大学経済学部准教授）
- 第3章 セーフティネットの基盤を考える：必要な人に制度を届けるために 平川則男（連合総研副所長）
- 第4章 職場の新たな「つながり」と発言：多様性のジレンマを乗り越える 松浦民恵（法政大学教授）
- 第5章 セーフティネットとしての集団：法と自治の視点から 神吉知郁子（東京大学大学院法学政治学研究科准教授）
- 第6章 ドイツの事例に学ぶ：「限界ギリギリのデリバリー運動」とは 後藤究（長崎県立大学地域創造学部専任講師）
- 終章 これからのセーフティネットと集団のあり方 玄田有史

■編者と執筆者

玄田有史 東京大学社会科学研究所教授。専門は労働経済学。主な著書に『ジョブ・クリエイション』（日本経済新聞出版）、『仕事のなかの曖昧な不安』（中央公論新社）、編著書に『人手不足なのになぜ賃金が上がらないのか』『仕事から見た「2020年」』（以上、慶應義塾大学出版会）など。

連合総研 労働組合「連合」のシンクタンク。勤労者とその家族の生活向上、経済の健全な発展と雇用の安定に寄与することを目的に、国内外の経済・社会・産業・労働・福祉問題など、幅広い分野での調査・研究活動を進める。